

# 短期インターンシップの内容分析

鯨坂 はるよ\*

## A Content Analysis of Short-Term Internships

Haruyo Ajisaka

---

【キーワード】 インターンシップ, 教育効果, 内容分析  
internship, educational effect, content analysis

### 1. 研究の背景と目的

日本におけるインターンシップは、平成9年に国際化・情報化の進展、産業構造の変化など、日本の社会経済の変化に伴って、高等教育における創造的人材育成に大きな意義を有するとともに、新規産業の創出等を通じた経済構造の改革にもつながるという観点から、「経済構造の改革と創造のための行動計画」（平成9年5月16日閣議決定）及び「教育改革プログラム」（平成9年1月24日文部省）において、インターンシップを総合的に推進することとなった。当時の文部省、通商産業省、労働省の三省が共同で「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」も発表され、これを基本としてインターンシップは推進されてきた。

この「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」では、インターンシップを「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義している。

平成26年には文部科学省、厚生労働省、経済産業省で「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」の見直しがされ、そこでも「大学等におけるインターンシップは、大学等における学修と社会での経験を結びつけることで、学生の大学等における学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組」と位置付けられている。

平成8年の文部省のインターンシップの実施状況の調査では、大学でのインターンシップ実施校は17.7%（104校）、短期大学では6.4%（36校）という実施状況だったが、平成27年度の実施状況は、大学では93.4%（730校）うち単位認定を行うインターンシップを行っている

---

所属および連絡先

\* 大阪千代田短期大学

## 短期インターンシップの内容分析

大学は91.0%（712校）、短期大学では87.5%（300校）うち単位認定を行うインターンシップを行っている短期大学は83.4%（286校）とほとんどの大学、短期大学でインターンシップは実施され、単位認定も行われている。

本学は2000年に英米語学科を総合コミュニケーション学科に改組し、英語コミュニケーションコース、ケアコミュニケーションコース、ビジネスコミュニケーションコースを設置した。その後、2004年にビジネスコミュニケーションコースをビジネス情報コースと変更し、2005年にインターンシップの単位化を行ったが、インターンシップを行う者は、他コース学生であり、ビジネス情報コースでインターンシップを行う学生は見受けられなかった。ビジネス情報コースでインターンシップを実施したのは、2008年からである。

本学のビジネス情報コースでは、事前指導を行い、企業、病院（医療事務）等の5日間～2週間の短期インターンシップを実施後、「インターンシップ演習」として単位認定を行っていた。2015年度にビジネス情報コースを健康医療実務コースに改組し、薬の販売に携わる登録販売者資格取得の学びにも取り組み、「インターンシップ演習」の取り組みとして、ドラッグストアでのインターンシップにも取り組むこととなった。

宮城（2014）は「多くの大学と企業が、インターンシップが高い実習効果を上げるためには、1カ月以上の期間が必要だと考えている」と述べているが、本稿では、短期インターンシップは教育効果がないのかどうかを検証する。

健康医療実務コース1期生は、2015年に入学し、2015年の1回生7月～9月に5日間～2週間のインターンシップに組み、2017年3月卒業した。健康医療実務コース1期生16名中12名がインターンシップに組み。12名のインターンシップ先は、スポーツ施設2名、病院（医療事務）3名、堺・プロジェクト型インターンシップ（堺・南大阪地域インターンシップ推進協議会）1名、ドラッグストア6名である。そのうち、3名が登録販売者資格試験に合格し、5名がドラッグストアに就職した。

本稿では、ドラッグストアでインターンシップを行った6名に絞って、インターンシップでの学びの分析を試み、インターンシップを通して、どのように学生の意識、関心が変化し、登録販売者資格試験合格、ドラッグストア就職に繋がっていったかを検討したい。

杉森（2014）は「過去に提出されたレポート等のパフォーマンス課題とその評価を振り返ることから始めるとよい。学生に何を期待し、なぜその課題を与え、そのとき何が起こっていたかを明らかにする」ことが重要だとしている。本稿でも、インターンシップの日記の記述を振り返り、インターンシップ後、なぜ学生が登録販売者資格試験に前向きに組み、ドラッグストアへの就職活動も積極的に行ったのか、インターンシップを行うことによって、学生に何が起こっていたのかを明らかにするため、インターンシップの日記の記述内容を分析、検討する。

## 2. インターンシップの概要

2015年4月下旬にインターンシップ先一覧を配布し、インターンシップを実施する7月末まで事前指導を行う。インターンシップ先一覧を配布した後、インターンシップ先を決めるにあたっての個別相談を行い、5月上旬までにインターンシップを決定する。5月中旬にインターンシップ先に提出する受講動機作成を学生に課し、受講動機作成のため教員が個別指導を行い、インターンシップ受講動機をインターンシップ先に郵送する。6月から7月末までに、インターンシップを行うにあたって必要となるマナー・敬語等を学び、インターンシップ先を研究、学習した後、「体験実習（インターンシップ）での私の目標・課題」を作成する。

その後、インターンシップを5日間～2週間実施し、毎日、日誌を記入する。日誌の内容は、「実習内容」「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」「反省・感想等」である。

事後指導では、インターンシップ先にお礼状を書き、「体験実習（インターンシップ）の振り返り」シートを記入する。「体験実習（インターンシップ）の振り返り」シートの項目は、「1、自分の実習目標、課題に対して、どのような成果を得たか」「2、1以外に気づいたこと、学んだこと」「3、実習中に印象に残っていること」「4、この体験実習を今後の学習や学生生活を進める上で、どのように活かそうと思うか、また実習を踏まえて、自分のこれからの課題は何か」「5、実習全体を振り返って」となっている。その後、健康医療実務コースで、インターンシップ報告会を開き、インターンシップを体験した者が発表し、インターンシップを体験した者も体験していない者も質問し、その質問や回答によって、お互いに学びを深めている。

本稿では、インターンシップの際に学生が書く日誌を検討する。尾川ら（2015）が、「学生が何を学んだのか、それはどのような点で重要だったのか、何が達成できて何が達成できなかったのかなどについて自己認識を深め、言語化することが重要であると考えられる」と述べているように、学生は何が達成できて何が達成できなかったのかなどについて自己認識を深め、言語化することが非常に重要であり、言語化することによって、認識でき、その後の成長に繋がりが、教育効果が高いものとなるのである。そこで特に、日誌の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」に絞り、日ごとに学生の意識や・関心がどのように変化したのかを比較、検討する。

## 3. 研究方法と倫理的配慮

本研究の調査対象者は、健康医療実務コース1期生でインターンシップに取り組んだ12名の中のドラッグストアでインターンシップを実施した6名（女性2名、男性4名）で、6名とも同じ企業のドラッグストアでインターンシップを行った。インターンシップ期間は、2015

## 短期インターンシップの内容分析

年8月12日～8月16日の5日間である。実習内容は、初日は本社で「社会人としての基本」「経営理念」「事業内容」「5つの行動指針」「職場でのマナー」「挨拶の基本」「職場内での言葉遣い」「上司・先輩との接し方」「接遇7大用語」「ハウレンソウ」「店舗での業務」「お辞儀の仕方」等を学んでいる。2日目～4日目は、2人ずつ3店舗に分かれて実習を行った。最終日は、本社で「振り返り」で「プラスになったこと」「自分が考えた目標は達成したか」「今後の課題」「医療現場の現状」「ドラッグストアの未来像」等について、グループディスカッションを行った。

データの検討方法として、インターンシップの学びの概要を把握するため、学生が記述した日誌をテキストマイニングの分析手続きに基づいて、同種の語を置換した。共起するカテゴリをグリッドレイアウトで表示して視覚化を行い、学びの概要を把握した。集計、分析ソフトには、Microsoft office Excel 2013、IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0を使用した。

倫理的配慮は、健康医療実務コース1期生のインターンシップを行った者に、インターンシップの日誌の個人名が推測されないよう配慮し、インターンシップの日誌内容を定量化、データ分析を行い、今後の教育・研究へ活かす研究目的でインターンシップの日誌を使用することを口頭で説明し了承を得た。

## 4. 分析結果と考察

ドラッグストアのインターンシップの学びの特徴を把握するために、日誌の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の自由記述のテキストデータを定量化した。

1日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」では、2人以上から抽出された結果は、「学ぶ」の記述が4人、「時間厳守」4人、「マナー」3人、2人が記述している言葉が「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」「社会」「大切」「マニュアル」「説明」「守ること」「実習」「私」である。そこで、共起するカテゴリをグリッドレイアウトで視覚化すると、「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」、「マナー」について「学ぶ」意欲、「社会」において「時間厳守」の「大切」さ、重要性を再認識していることが読み取ることができる（図1）。

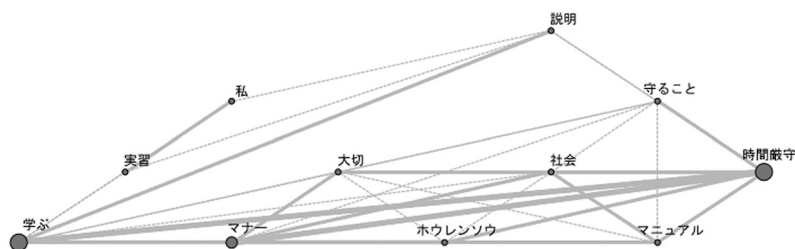


図1 1日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の学びの特徴

2日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」では、2人以上から抽出された結果は、「商品」6人、「前出し（商品を棚の一番前に出すこと）」4人、「わかる」3人、2人が記述しているものが「客」「サッカー（レジで商品を袋に入れる作業）」「作業」「明日」である。6人全員が「商品」という言葉を使い、店舗実習が始まり、「商品」を強く意識している。そこで、共起するカテゴリをグリッドレイアウトで視覚化すると、「商品」を「前出し」する「作業」を学んだことがわかる。また、「わかる」と「明日」「商品」が共起し、「商品」と「客」が共起しているという結果が得られた。これは、記述を見ると、「商品の位置がちょっとだけわかるようになりました。明日は今日より頑張って覚えるようにしたいです。」というように、商品の位置をもっと覚え、お客様に聞かれたら答えることができるようになりたいという学生の意識が窺える（図2）。

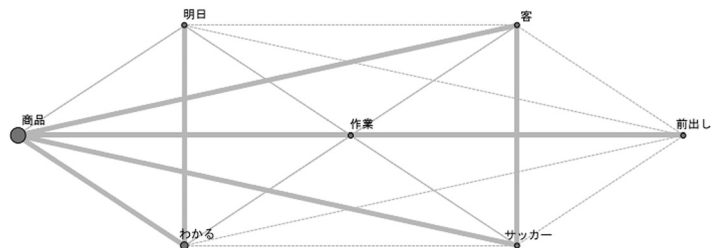


図2 2日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の学びの特徴

3日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」で、2人以上から抽出された結果は、4人から抽出されたものは「商品」で、3人から抽出されたものは「客」「サッカー」、2人が記述しているものが「明日」「確認」「品出し」である。「商品」を袋に入れる「サッカー」作業が増え、仕事に「確認」が重要であることを意識していることがわかる（図3）。

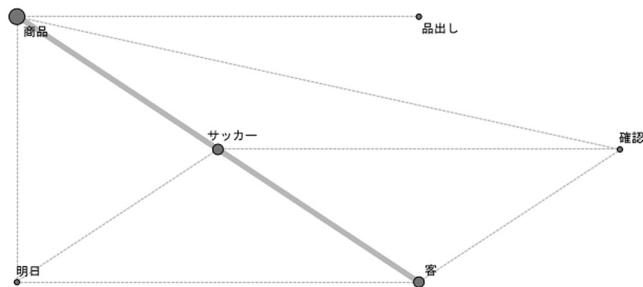


図3 3日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の学びの特徴

4日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」で、2人以上から抽出された結果は、「商品」4人、「場所」3人、2人が記述しているものが「客」「質問」「納品」「レジ」「案内」である。4日目で、「商品」の「場所」を「客」に「質問」され案内しようとしている姿が見られる（図4）。4日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」に、「お客

様の質問は場所や商品はどこにあるのかという質問ばかりではなく、品質、どんな違いがあるのかという質問が多かったです。」という記述が見られ、「客」からの「質問」を意識し出し、商品の知識が必要だということも認識している。この商品の知識が必要という認識から、薬品の知識をもっと増やしたいと意識し、その後の登録販売者資格取得の学習にも積極的に取り組むようになったのではないだろうか。

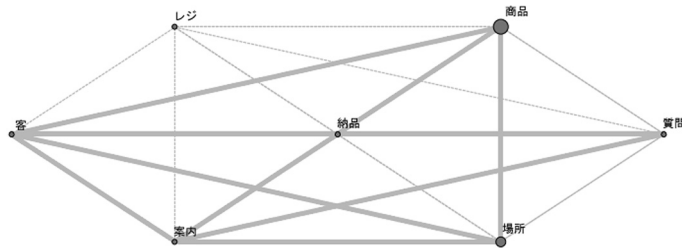


図4 4日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の学びの特徴

5日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」で、2人以上から抽出された結果は、4人が使用した言葉は「未来」「みんな」「自分」「振り返る」「今後」、3人が使用した言葉は「実習」「考える」「経験」、2人が使用した言葉は「グループディスカッション」「実感」「プレゼンテーション」である。

「グループディスカッション」も行うことで「みんな」と「自分」を意識し、「未来」を「考える」。「実習」の「経験」を通して、「振り返り」、「今後」の「自分」を意識していることがわかる（図5）。

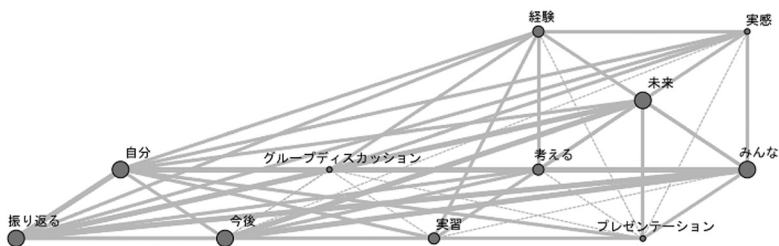
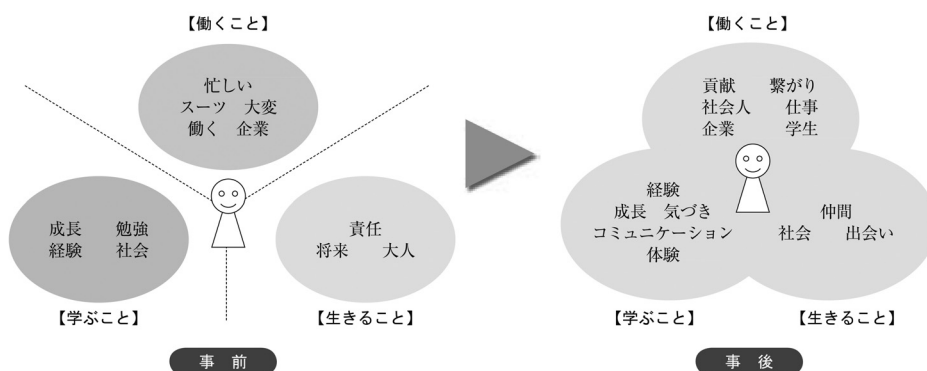


図5 5日目の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」の学びの特徴

宮城 (2014) は、「(1カ月のインターンシップの) 事前では『働くこと』『学ぶこと』『生きること』がばらばらに形成されているが、事後は生きていくうえで、3つの全てがリンクしていることを学生が認識するといった効果が出ていた。さらにワードに注目すると、事前では『働くこと』の 카테고リーに『忙しい』『スーツ』『大変』などのマイナスのワードが並んでいるが、事後では『繋がり』『貢献』などのワードが生まれている。同じく『生きること』の 카테고リーに『気づき』『コミュニケーション』『体験』など、社会とのつながりをプラスに受け止めるワードが増えていた。(図表1)」と述べている。



※分析対象者 (SBI 初級第1期 (2010年4月~9月) 第2期 (2010年10月~2011年3月) 実施者 382名中の202名)

図表1 刺激語「インターンシップ」に対する連想語調査分析結果イメージ

本稿の分析でも、最終日に1日目~4日目まであまり見られなかった「自分」「みんな」が表れ、人との「繋がり」を意識している。また、「実習」という「経験」を通して、気づき、「実感」し、「未来」を「考え」たのである。

入学直後、「仕事は大変そう」「働きたくない」と言う学生も少なくない。しかし、インターンシップ後の学生を見ると、生き活きとした前向きさが感じられた。それは、実習という経験を通し、考え、自分の未来を前向きに想像したからではないだろうか。

尾川ら (2015) は「インターンシップの教育効果の一つには、単一的・画一的な能力観 (仕事をするうえで必要な知識・能力・態度に関するイメージや先入観) を解体し、各自の経験に即して再構築する契機となりうる点が指摘できる」述べている。入学直後、仕事にマイナスイメージをもっている学生が多いのだが、ドラッグストアでインターンシップ実施した6人中4人の学生の日誌に、「楽しい」「楽しさ」という言葉が見受けられた。1人は3日目の日誌の「反省・感想等」に、「お客様の質問にもスムーズに答えることができました。…色々なお客様がいるということを知り、楽しくなり、好きになりました。」と書いている。もう1人は4日目の日誌の「反省・感想等」に、「何よりも働くのが楽しくなった。楽しいと思えた。」と記述している。後2人は最終日の日誌の「反省・感想」に、「しんどい時もあったが、とても充実して楽しい5日間でした。」「『働く』ということについて全くの未経験でしたが、本当にお客様の御声により嬉しくなり、自分なりに楽しさやなぜ働くか?という問いの答えに近づいた気がします。」という記述が見られた。6人中4人が働くことは楽しいという認識が芽生え、その後の学びや就職活動に対して前向きな姿勢になったのではないだろうか。

また、尾川ら (2015) は「インターンシップでの学びに関する意識は、インターンシップ参加前後で変化していることが明らかになった。具体的には、自分自身と働くことや学ぶことを関連づけて認識するようになっていた。この結果は、短期インターンシップでも中期インターンシップの教育効果と同様の効果があることを示唆している。」と述べている。5日間という

## 短期インターンシップの内容分析

非常に短い期間ではあるものの、「仕事は大変そう」「働きたくない」というマイナスイメージから、仕事に楽しさを感じることができ、その後の学び、就職活動に前向きになることができたのは、短期インターンシップでも教育効果があったということが指摘できるのではないだろうか。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、インターンシップの日記を基に分析を行い、短期インターンシップでも教育効果があるかどうか検証を行った。

インターンシップ初日の日記の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」では、「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」、「マナー」について「学ぶ」という意欲、「社会」において「時間厳守」の重要性を再認識していることが読み取ることができる。

2日目の日記の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」から、「商品」「客」の言葉が見られ、4日目に「客」からの「商品」の「質問」に答えたい、「商品」の場所を「客」に「案内」したいという意欲と「客」の「質問」に答えるため「商品」の知識が必要だと認識していることが窺える。

5日目の日記の「今日の体験実習で学んだこと・気がついたこと」から、「グループディスカッション」も行うことで「みんな」と「自分」を意識し、「未来」を「考え」たことがわかる。「実習」の「経験」を通して、「振り返り」、「今後」の「自分」を意識していることがわかる。

また、入学直後、仕事にマイナスイメージをもっている学生が多いが、ドラッグストアでインターンシップ実施した6人中4人の学生の日記に、「楽しい」「楽しさ」という言葉が見受けられた。5日間という非常に短い期間のインターンシップではあるものの、「仕事は大変そう」「働きたくない」というマイナスイメージから、仕事に楽しさを感じることができ、その後の学び、就職活動に前向きになることができたのではないだろうか。非常に短い期間のインターンシップではあるが、1回生の学びの入口としては意味があり、短期インターンシップでも学生のその後の学びと就職活動へのモチベーションを上げる教育効果はあったということを示しているのではないか。

しかし、本研究で扱ったデータ数が少ないということに加えて、日記の一部しか検討できていないため、本研究から得られた結果を一般化することはきかない。また、ドラッグストアのインターンシップが、どのように登録販売者資格取得や就職と繋がっていったのかが、詳細に分析できていない。今後、日記の自由記述箇所をさらに分析し、登録販売者資格取得や就職と繋がりがいいのかどうか研究を深めていくことが今後の課題だと認識している。



<引用文献>

- 宮城治男（2014）「長期インターンシップをカリキュラムに位置づける」『カレッジマネジメント』187  
リクルート, 9-10.
- 文部科学省「第2部 文教・科学技術施策の動向と展開 インターンシップ実施状況」[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab200401/hpab200401\\_2\\_147.html#fb2030202](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200401/hpab200401_2_147.html#fb2030202), 2018.2.15
- 文部科学省「平成27年度 大学等におけるインターンシップ実施状況について」[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/23/1387144\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/06/23/1387144_001.pdf), 2018.2.15
- 文部科学省「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/055/attach/1332849.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/055/attach/1332849.htm), 2018.2.15
- 文部科学省『『インターンシップの推進に当たっての基本的考え方』の見直しの背景及び趣旨について』  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/sangaku2/1346606.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1346606.htm), 2018.2.15
- 尾川満宏、甲原定房（2015）「短期インターンシップの教育効果とは何か？ —参加学生を対象とした意識調査の分析から—」『山口県立大学学術情報』第8号, 41-50.
- 杉森公一（2014）「キーワードで読み解く大学改革の針路 第3回 ループリック」『Between』10-11月号 進研アド, 28-29.